2016年　第33回　明科いいまちサロン

平成28年4月26日（火）10時から12時　　於：明科公民館講堂

特定非営利活動法人　森倶楽部21　理事長　永田千恵子さんの長峰山の里山再生活動講演会

お茶うけは草団子と朝漬け

宮川副代表よりお茶うけの草団子の紹介

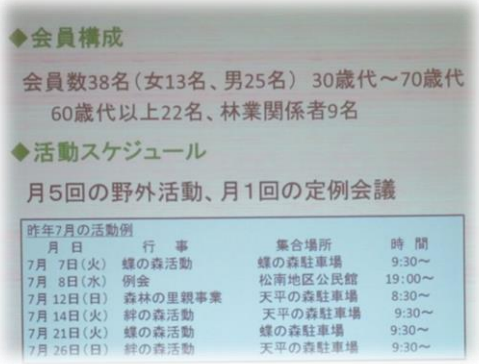
お茶をいただきながら夫々団欒の一時を

宮川さんの指揮で花を合唱

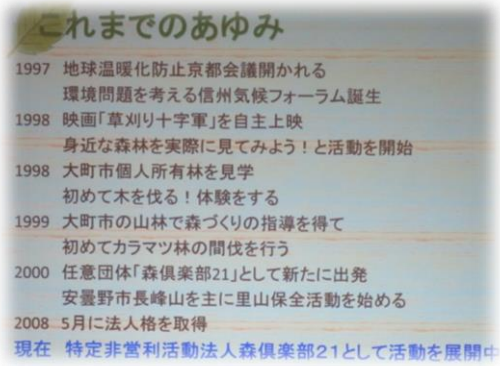
浅見さんより永田千恵子講師紹介

本日の講師　永田千恵子さん

長峰山における里山再生活動を紹介

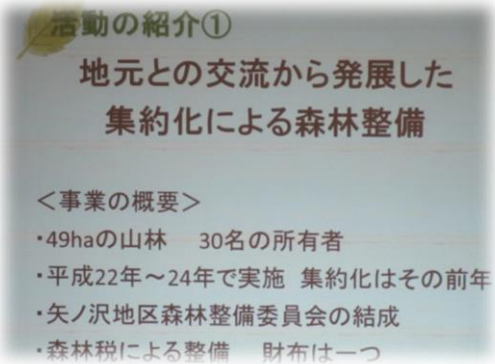


森倶楽部21の会員構成と活動スケジュール



長峰山の里山保全活動を始めるまでの歩み

活動場所 長峰山 （蝶の森・絆の森）



地元の交流：森林整備 49ha

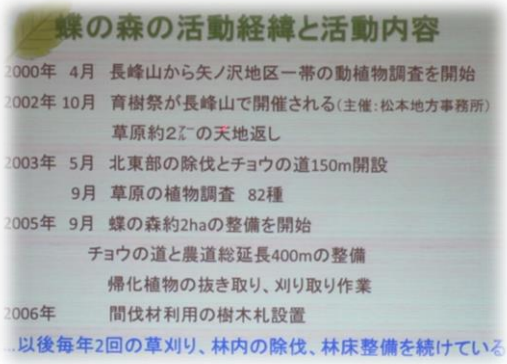
地元の長老から話を聞く

地元住民との交流

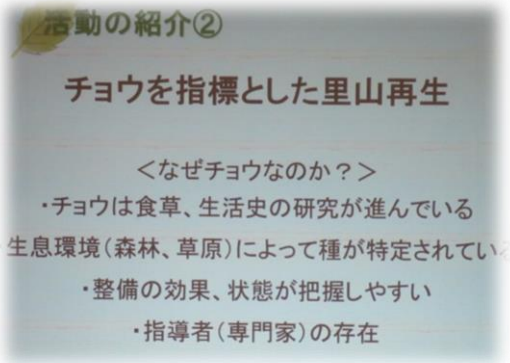
竹の皮で作った草履

矢の沢地区の皆さんと共同での作業

2010年～2013年　49ha集約化　森林整備



蝶の森の活動経緯と活動内容

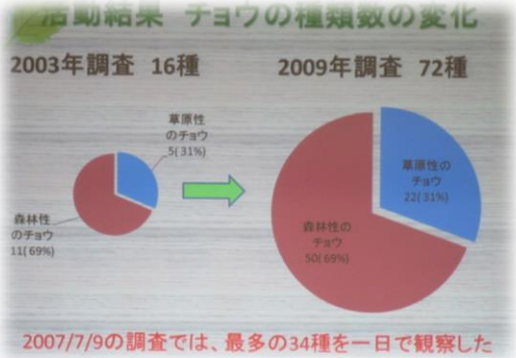


チョウを指標とした里山再生

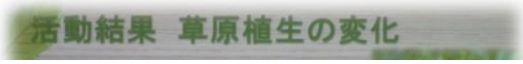
蝶の森の概略図

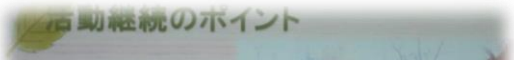
チョウの道400m整備・林内除伐、林床整備

2015年5月の活動



活動の結果によるチョウの種類数の変化





活動結果により草原植生に変化　100種で推移

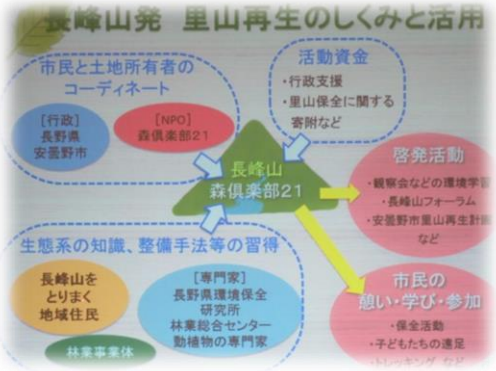
活動継続のポイント　　地元の理解と交流

活動の拠点　きより館（矢の沢文教場）

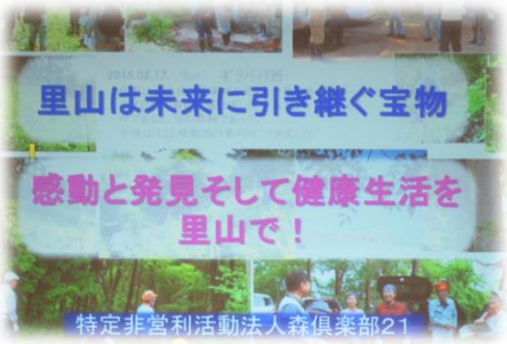
里山で暮らしてきた方の協力

里山に来てくれる人を増やす（森林の里親促進事業）

仲間とともに



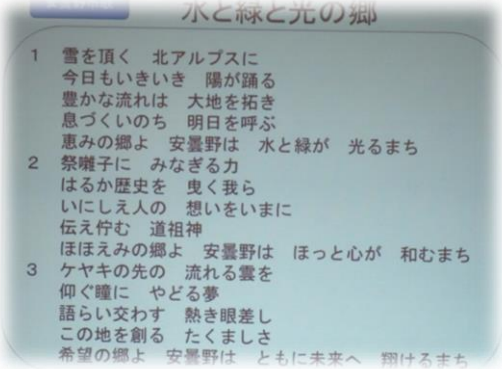
里山再生のしくみと活用



里山は未来に引き継ぐ宝物・感動と発見そして健康生活を里山で

会員から永田さんへ質問

安井公民館長よりお礼の言葉



宮下さんの指揮で　市歌　水と緑と光の郷　全員で合唱

最後に　明科町歌「わが町」を全員で合唱

水田にもあちこちで水が入り、田植え前の作業が始まる時期に第33回いいまちサロンを開催したところ50名の参加をいただきました。

今回は、年度初めのサロンで明科のいいとこ　発見！第1弾として森倶楽部21　理事長である永田千恵子さんから長峰山の里山再生活動に携わって16年、山の魅力に見せられた歩みと活動の内容と永年続けられた要素についてお話をしていただいた。森倶楽部21は38名（女13名・男25名で60歳代は22名）で安曇野市在住は13名他は近隣からの会員であるとのこと。①身近な里山はどうなっているのか②事があった時反対するのではなく、自分で何ができるかと言う思いからこのような道に入るきっかけとなった。大町で個人所有林を見学し、初めて木を伐る体験をした。明科の山を見て歩き、長峰山が荒れているが、色々な様相があった。2000年から山に入り活動し2008年に法人格を取得、16年前に矢の沢の集落の人たちと交流、地元へ入って勉強をした。悲鳴を上げている山だと感じ地域で使われてきたが、自然に逆らわないように整備、生活の中からの伝統文化・竹の皮で作った草履
地元の方との交流により集約化による森林整備（3年間・森林税活用、伐採木の売り上げ）

里山の生き物を呼び戻す。浜栄一さんの話を聞き、一緒に歩んできた。蝶の森2haの整備と動植物調査を続け草刈や林床の手入れにより森や草原が明るく嘗ての里山のようにたくさんの蝶や植物が蘇っています。
・里山の生き物を呼び戻そう・多様な環境を維持して行こう・森の恵みを活かしたい・子ども達に木のぬくもりを
・森と人をつなげたい・里山に集う人の輪を広げたい・環境に適した森を・森の事をともに学び考えよう
いろいろな事を学び壊さず将来へ引き継ぐことが必要である。地域材の活用、地元の木で作った材を取入れ事が必要、暮らし方を考える。 永田さんからの話しを聞いて、嘗ては里山と生活が密着していたが、時代の流れとともに忘れられた存在になってしまっている。自分たちの暮らし方も見直していかなければならないと感じた。